年頭のごあいさつ

占冠村長
田中　正治

村民の皆さん、明けましておめでとうございます。

健やかな新年をお迎えのことと、心からお喜び申し上げます。

占冠村長に就任し1年4ヶ月を迎えましたが、村民の皆さんの温かいご支援とご協力によりまして、その職責を果たすべく職務に励んでおります。

この1年間村長として、村民の皆さんのご期待に沿えたかとの思いを感じながら、新たな年へ向け今年も全力で取り組んでまいります。

今年は「亥年」ですが、亥年にはいくつかの意味があるとされ「亥」ともされる動物の「猪」の肉には、万病さえも防ぐ力があるとされており、亥年には「無病息災」の意味もある年とされております。健康には留意され元気に過ごせる年になればと願うところです。

昨年は、トマムリゾートにおいてクラブメッド北海道・トマムがオープンし、星野リゾート・トマムとの相乗効果により、リゾート地としての地位を一段と高め、北海道内においても期待される地域として前進しました。一方、定住促進や地域振興などに繋がっていない一面もあり、今後の課題と考えております。

また、公約のひとつとして占冠保育所の建設を昨年は計画年として、様々なご意見等をいただきましたが、本年建設することとしています。子どものいるところに大人が集まるとの思いは強く、地域振興にとって大きな役割を果たしてくれるものと思っています。

住民生活を維持発展するためには、まだ多くの課題を抱えている現状を認識しておりますが、私は村政執行の基本を、すべての村民が報われる社会をめざし、「生まれて良かった」「育ってよかった」「暮らして良かった」そして住み続けたいと思える村づくりを進めるとお伝えしてきました。今年もこのことを胸に、占冠村の限りない発展のため、村民の皆さんと共に全力で村づくりに取り組んでまいります。

村民各位におかれましては、本年も希望に満ちたすばらしい年でありますようお祈り申し上げ年頭のごあいさつといたします。

占冠村議会議長
相川　繁治

明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、この一年が素晴らしい年となりますことを心からお祈り申し上げます。

議員が一名欠員の中ではありましたが、村民皆様のご理解のもと、議会活動を遂行することができました。心から感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、3月9日、暖気による大雨112㎜と融雪で河川全体の氷と雪が一気に動き、特に字占冠の更生橋付近が大変危険な状態でありました。

また、7月5日にも大雨洪水警報発令に関する対応など、村内を問わず、西日本の大水害や、9月6日、最大震度7を記録した北海道胆振東部地震により多くの犠牲が出る甚大な被害が発生し、いまだその復興には程遠く、何年も先になるものと思います。

最近では、温暖化の影響か、世界各地においても想定外の自然災害が多発しています。

村民の安心・安全を確保するためには、予測と備えを万全にすることが肝要であると思います。

今年は、地方自治法が施行され、72年目となりますが、5月には平成から新たな年号に変わるものと思われます。このような変わり目の年に、知事選をはじめとした統一地方選挙、7月には参議院選挙が予定されるなど、選挙の多い年であります。

占冠村議会においても改選ですが、なり手不足と言われる中で、本当に、村政、地方自治に関心をお持ちの方は、ぜひ出馬されてはいかがでしょうか。

昨年11月に、今日までの議会活性化活動でありました住民と議会の懇談会に代わり、中学生及び後期生とのコミュニティ・スクール議会を開催しました。内容については、第1回コミュニティ・スクール議会広報として全戸配布をさせていただいたところであります。今後もさらに検討を重ね、次年度事業にもつながるよう取り組んでまいります。

交通関係で、昨年は、JR根室本線、特に富良野―新得間の存続、災害復旧工事についての要望活動を行ってまいりました。しかし、国・道との考え方のずれなど思わしい方向には進んでいないのが現状であります。大切な住民の足として、また、観光事業の輸送手段としても必要不可欠であると考えます。

昨年12月、国会において、外国人労働者受け入れ制度・水道民営化などが少ない審議の中で、強行採決が行われましたが、このことにより地方行政・住民生活にどのような影響が及ぶのか、国民の理解は得られていないのではないかと感じております。

残された任期の中ではありますが、一人ひとりが議決機関として残された村政の課題に取り組んでまいります。

村民の皆様にとって、この一年が災害のない、安心して暮らせる穏やかな年になりますことを心から願い、年頭にあたってのご挨拶といたします。